

【vol.5】“C メジャーペンタ”と“A マイナーペンタ”と“トニック”

それでは vol.5、やっていきましょう。

これまでの講座で、

- ・C メジャーペンタの 5 ポジション
- ・「メジャーペンタトニックスケール」という言葉の意味
- ・メジャーペンタのギターソロ譜例 2 つ

を学びました。

2 つのソロを弾いてみたら分かると思いますが、この講座のテキスト番号で言う、第 1 ポジションと第 2 ポジションは、ギターのフレーズを弾くにあたって、世のギタリストに使われまくっています。

今後、あなたもまず間違いなく、使いまくることになるでしょう。

なぜなら、上の二つのポジションは、ギター演奏において、一番フレーズが弾きやすい形をしていて、かつ、おいしい音にアプローチしやすいポジションだからです。

バックング、ソロ、フィルインなど、ありとあらゆるプレイの基本となります。

ペンタの 5 ポジションを全部覚えていない、とか、もはやギタリストではありません。

僕の先生(師匠のような人)はよく『ペンタトニックは偉大だ』と口にします。

それはなぜかと言うと、あの 5 ポジションの組み合わせで、基本的なものから、理論的な上等アプローチまで、幅広く行えるからです。(これは後々分かってきます)

しばらくは、まだそこまではいきませんが、この講座の後半の方で学んでく予定です。

あと、重要なのは vol.3 でやった、3つのポジションをまたぐ鉄板の動き。

あれも、譜面を載せた2つのソロで、それに近い動きが出てきているはずです。(どこに?と思ったら、もう一度じっくりと弾いてみてください)

と、前置きはこの位にして、今回は、

- ・CメジャーペンタとAマイナーペンタの違い
- ・『トニック』はどの音なのか?
- ・『ルート(ルート音)』と『トニック』の違い

について学んでいきましょう。

この講座は、ギタリストに必要な基礎能力を全て身に付ける事が目的なので、新しいことはどんどん覚えていってもらいます。

ギター上達の最もシンプルな方法は、『ちゃんと覚えることを覚えて、自分の好きな曲を楽しく弾くこと』です。

世の人を見わたすと、好きな曲は弾いていても、覚えることを覚えていない人が大半ですよ。

覚えること(基本のスケールや理論など)を覚えていないと、近いうちに必ず、大きな壁にぶち当たります。

しかも、ちゃんと勉強している人に比べると、より壁にぶつかる回数が多くなるというオマケつき。

なぜなら『ギターを弾いている』だけで、
『音楽のこと』をまったく分かってないわけですから。
(学ぶと言う事を、やるかやらないか、どちらを選ぶかはその人の自由ですが)

そもそも、好きな曲を弾いていても、一曲から学べることの、
習得率や習得スピードにかなりの差が出てくるでしょうし。

その曲で、アーティストが何をやっているのかが、分析できませんからね。

もちろん何度も言っている通り、ペース配分は考えます。

分かりにくければ、分かりにくい、とメッセージをください。
(何処がどうわかりにくかったのかを書いてくださいね)

では、いきましょう。

・C メジャーペンタと A マイナーペンタの違い

さて、C メジャーペンタのポジションはこれまでで全て覚えたわけですが、
今回は『A マイナーペンタトニックスケール』のポジションも
全部覚えてしまいましょう。

で、そのポジションなんですが、

“A マイナーペンタトニックスケールのポジションは、
C メジャーペンタとまったく同じ”

です。

練習法としては、C メジャーペンタの 5 つのポジションでやったように、
同じ形を今度は『A』の音から弾き始めて、『A』の音で終わってください。

まずはこれだけで十分です。

C音から始めてC音で終わっていた時は明るかったスケールが、一転、A音から始めてA音で終わると、暗い感じの響きになるはずですよ。

ポジションはもう覚えていると思うので、指の運動やポジションの確認と言うよりは、“始まる音によって変わる「スケール全体の響きの違い」を耳で聴く”ことに集中してください。

これを全5ポジションで行います。

なぜ、CメジャーペンタとAマイナーペンタがまったく同じポジションなのか？という部分は、今後の講座で解説しますので、まずは、耳と手で響きの違いを確認してください。

・『トニック(tonic)』はどの音なのか？

次に、『トニック(tonic)』について。

以前の講座で少し解説しましたが、『トニック』とは『主音』のことでしたね。

「主音ってなんだよ？」って感じですが、『主』という文字が表しているように、その集団の“あるじ(主)”、要するに、今、想定しているスケールやらなんやらの“基点、基準、中心”となる(基準に考える)音のことです。

この『トニック』と言う言葉は、“何について話しているのか？”で、対象が微妙に変わってくるので、慣れるまではちょっとやっかいです。

とりあえず、今回は、

『スケールについて話しているとき、“トニック”といたら、“～”メジャースケール』とかの、最初のアルファベットの音名の事を指している』

と覚えておいてください。

『C』メジャーペンタだったら『C音』がトニック、
『A』マイナーペンタだったら『A音』がトニックです。

今後、トニックという単語も頻繁に出てくると思いますので、
少しずつ慣れていってくださいね。

また、理論を学び始めたばかりの頃、“トニック”と意味を混同しやすいのが、
コードを考える時に出てくる『ルート音(root)』です。

ルートもトニックも、ある種の基点を表している点では同じです。

しかし、ルート音(root)という表現は、基本的にコード(和音)について考える時に使います。

この辺りの違いを詳しく見ていきましょう。

まず、ルート音(root 音)と言う音楽用語を日本語に訳すと、『根音(こんおん)』です。

『root』と言う英単語は、樹の根っこの『根(ね)』ですし、広い意味では、
『根本、根源、起源』などを意味する事もありますよね。

で、『コードについて考える時に使う言葉』で、『root』なので、
それが指しているモノは、『コード』の『根っこ』なわけです。

『root 音』=『根(ね)の音』なので、要するに一番下の音って事ですね。

もしかしたらどこかで聞いたことがあるかもしれませんが、
『コード(和音)』と言うモノは、下から上に音を積み重ねていくもの』です。

これについては五線譜を見れば一目瞭然ですね。

一番低い音 = root音(この場合はC音)から、
上に音が積み重なっている

この様に、

『低い音から上に音を積み重ねていく時＝コード(和音)を形成する時に、土台とする1音』
の事を「樹の根」や「根源、起源」の例えとして『root』と言う言葉を使っているのです。

なので例えば、「C」と言うコード表記は、

『C音をroot音にして(C音を土台にして)、メジャートライアドを形成する』

と言う意味ですし、他にも「Dm7」と言うコード表記は、

『D音をroot音にして(D音を土台にして)、マイナーセブンスのコードを形成する』

と、そういう意味です。

この辺りのコード構成の話は後々やっていくので、現時点では、

『root音とは、コード構成の土台とする、一番低い音の事を指している』

と、このくらいの解釈で十分です。

もう少し、トニックとの違いを説明するならば、トニックは、

『ほぼ平等に、どの音もトニックに出来る一定の音列(≒スケール)があった時、
どの音を基準として設定しているのか？』

と言うような、横(平行、平等)の感覚で、

ルートは、

『コード(和音)としての音の塊があった時、一番低い音(と言うか土台に設定している音)の事』

を指すような、縦の感覚に近いです。



『root』 ↑
このようなコード(和音)
=音の塊の中の、土台の音

『tonic』
なにかしらの音の集合体(≒スケール)の中で、
どの音を基準に考えているのか？ (=tonicに設定しているのか？)

これらの使い分けも、段々とわかってきますので、今は何となくの理解でOKです。

と、言うことで、今回学んだことは、

- ・C メジャーペンタとA マイナーペンタはまったく同じポジションである
(基準にする音を変えたもの)
- ・スケールの『トニック(主音)』は『" ~ "メジャースケール』などの名前の、
最初のアルファベットの音のこと
- ・『ルート(ルート音)』と『トニック』の違い

でした。

それでは今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼